

2006 2006 2006 2006

2006 ふくほうディスクロージャー誌

Fukuho Report



ゆめBANK
福邦銀行

C O N T E N T S

シンボルマーク・プロフィール	1
経営理念・福邦の心	2
頭取あいさつ	3
当行の考え方	4
トピックス	5
平成17年度業績ハイライト	6
地域貢献への取り組み	8
地域への融資の取り組み / 地域サービス充実への取り組み / 地域振興への取り組み	
より信頼をいただくための取り組み	15
資産の健全化に向けて / コーポレート・ガバナンスほか	
資料編	21



シンボルマーク

当行は平成元年にCI計画を導入し、このシンボルマークを使用しております。
このマークは、皆様と当行の固い信頼関係の上に、共に発展していくため、
当行のイニシャルである「F」をダイナミックにシンボル化したものです。
グリーンは地域の発展を示し、白とグリーンで円を描いている部分は、
皆様と当行のふれあいを表しております。
この三角と円のハーモニーによって、全体にイメージされる「F」のデザインは、
地域と皆様の繁栄に貢献し、未来永久に幸せをもたらしていきたいという当行の
決意を示しております。

プロフィール(平成18年3月末現在)

名 称	株式会社 福邦銀行 THE FUKUHO BANK, LTD.
本店所在地	福井市順化1丁目6番9号
創 立	昭和18年11月5日
資 本 金	43億円
預 金	4,346億円
貸 出 金	3,450億円
発行済株式総数	31,800千株
自己資本比率	9.42% (国内基準)
店 舗 数	51カ店
キャッシュコーナー	111カ所
従 業 員 数	580名
ホームページ	http://www.fukuho.co.jp
金融機関コード	0537

地域社会への貢献

私どもは幸せな人間生活と豊かな社会づくりに貢献することを銀行活動の使命とします。

経営理念

健全なる経営

銀行の発展は、地域社会への貢献の証しであり、私どもの存在を可能とするため、より健全な経営に心がけます。

活力ある職場

私どもが人間として尊厳を勝ちとるための錬成の場として、明るく活力ある職場づくりに努めます。



至誠の心

信頼の絆と責任を自覚し、お客様にまごころを尽くします。

和の心

お互いの立場を理解し、喜びを分かちあう心を育てます。

福邦の心

進取の心

変化に対応する熱意と挑戦する心を養います。

共存共栄の心

お客様第一に徹し、共存共栄の心で奉仕します。

信頼第一の銀行を目指し 地域に貢献してまいります。

平素より私ども福邦銀行を格別にお引き立ていただき誠にありがとうございます。

当行は、昭和18年の創立以来、地域社会への貢献のため健全な経営を続け、皆様と共に発展を遂げてまいることができました。これも、ひとえにお取引先、株主の皆様をはじめ地域の皆様のお陰でございます。心から厚くお礼申し上げます。

このディスクロージャー誌「FUKUHO REPORT 2006」は、当行の経営方針、最近の業績や活動状況について、わかりやすくご説明させていただくことを心がけて作成いたしました。当行が何を目指し、どのように取り組んでいるのか、皆様のご理解をより一層深めていただければ幸いです。

現在、当行は、金融環境の激しい変革に柔軟に対応し、地域のお客様に最適な金融サービスを提供していくため「第六次中期経営計画“ふくほうSpirit”」を展開し、健全な経営体質の構築を基本方針に「収益力の強化」「リスク管理の強化」「人材養成」を重点課題として取り組んでおります。引き続き健全な経営に徹し、「信頼第一の銀行」を目指し、地域社会の発展に貢献してまいります。

今後とも、皆様のご指導ご鞭撻と、なお一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

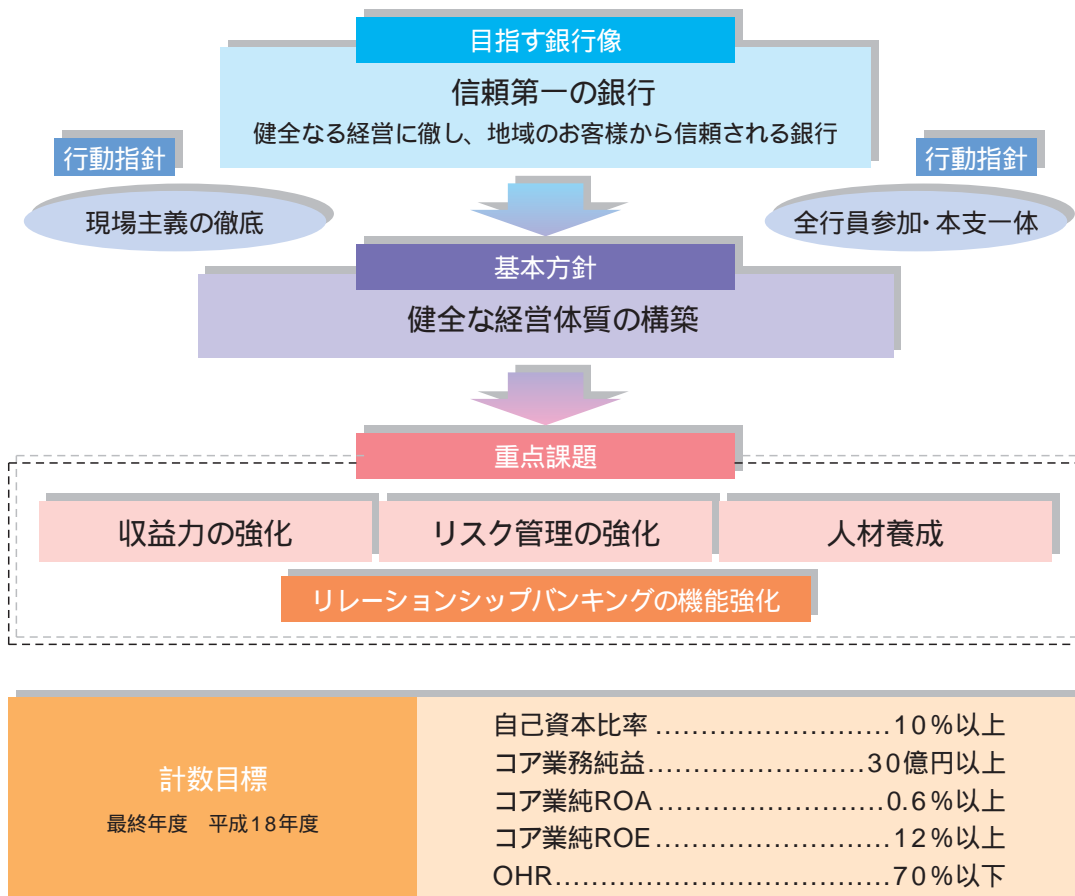
取締役頭取 三田村俊文



第六次中期経営計画“ ふくほうSpirit ”

名称、期間、基本的考え方

- 名称：第六次中期経営計画“ ふくほうSpirit ”
- 期間：平成16年4月～平成19年3月：3ヵ年計画
- 基本的考え方：金融環境の激しい変革に柔軟に対応し、地域のお客様に最適な金融サービスを提供するため、地域に根差した営業体制を強化し、収益性の高い健全な経営体質を構築する。



「地域密着型金融推進計画」について

当行では、平成17年8月、金融庁の「地域密着型金融の機能強化の推進に関するアクションプログラム（平成17～18年度）」を受けて、「地域密着型金融推進計画」を策定いたしました。具体的には、「(1) 事業再生・中小企業金融の円滑化」、「(2) 経営力の強化」、「(3) 地域の利用者の利便性向上」に向けて、個別の取り組みごとの実施スケジュールに沿って各施策に取り組んでおります。

平成17年度は、融資審査能力の向上に向けた整備への着手、目利き力向上のための人材育成、「福邦銀行

ビジネス情報交換制度」の活用、パーゼル 導入に備えた準備、法人向けインターネットバンキングサービスの開始、地域のお客様に分かりやすく充実した情報開示、「ふくほうゆめプラザ」の開設、投資信託商品「福井県応援ファンド」のお取扱いなどを行いました。引き続き各施策を実施し、地域密着型金融の機能向上を着実に進めてまいります。

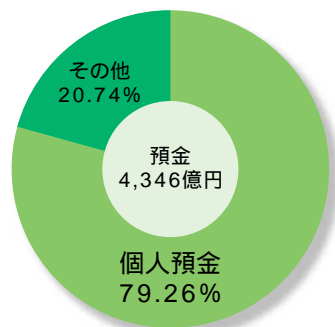
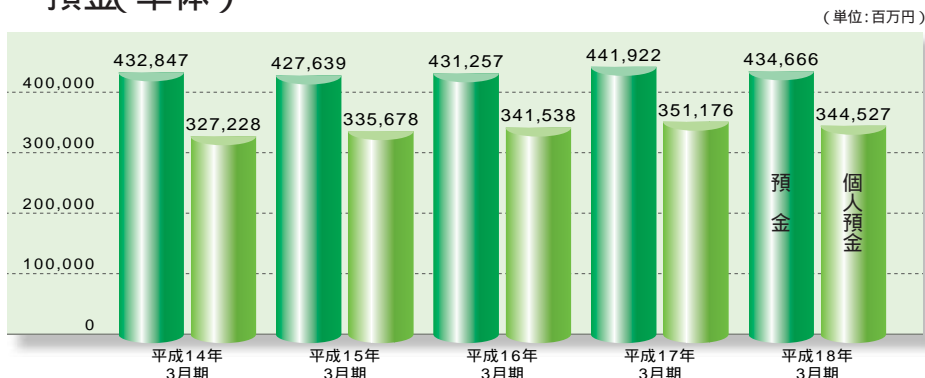
当行の「地域密着型金融推進計画」および進捗状況はホームページ（<http://www.fukuho.co.jp>）で紹介しております。

トピックス(平成17年4月～18年3月)

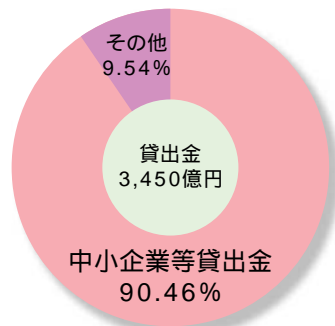
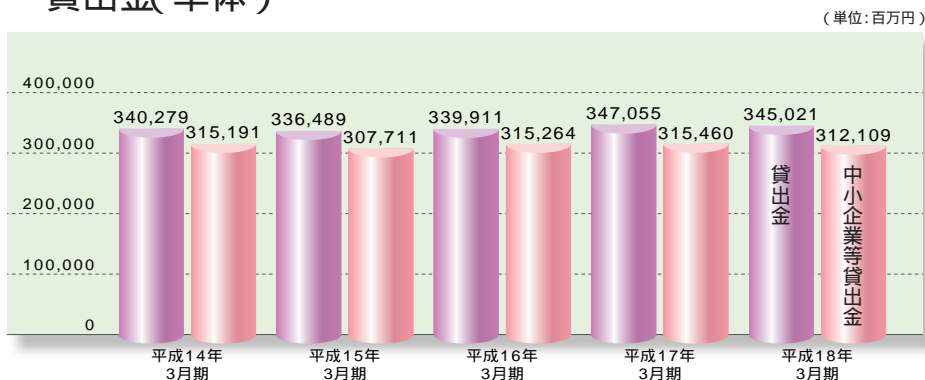
経営・営業関係	店舗	月	新商品・新サービス	キャンペーン
平成17年3月期 業績予想の修正を発表	JR福井駅にATM設置	17年 4	長期固定金利型住宅ローン「フラット35(公庫買取型)」取扱開始	春のわくわく キャンペーン
「リレーションシップバンキングの機能強化計画」の進捗状況(要約)(平成15年4月～17年3月)をホームページで公表 平成17年3月期 決算短信発表		5	投資信託商品「オンザライン」取扱開始 抵当権次順位設定型住宅ローン「じゅうわり君フラット」取扱開始	
個人リテールセンター新設 など本部機構を一部改定	つくし野支店にATM増設	6	「第22回懸賞品付き定期預金」取扱開始 「金利上乘せスーパー定期預金」取扱開始	ふくほう定期預金 キャンペーン
2005ディスクロージャー誌・ミニディスクロージャー誌発行		7	投資信託商品「オンザライン」取扱開始	
平成18年3月期 第1四半期財務・業績の概況開示 「地域密着型金融推進計画」をホームページで公表		8	「LPガス住宅ローン」取扱開始	
		9	「オール電化住宅ローン」取扱開始	
「ふくほうゆめプラザ」オープン		10	事業者向け無担保ローン 「勇士500カードローン」取扱開始	ふくほう定期預金 キャンペーン
平成18年3月期 中間業績予想の修正を発表 平成18年3月期 中間決算短信発表		11	投資信託商品「福井県応援ファンド」取扱開始 「第23回懸賞品付き定期預金」取扱開始 「投資信託・外貨定期預金セット定期預金」取扱開始	
「地域密着型金融推進計画」進捗状況(平成17年4月～9月)をホームページで公表 2005中間期ミニディスクロージャー誌発行		12	「一時払終身保険」取扱開始	
		18年 1	全国の金融機関との相互入金業務開始(入金ネット) 大雪による災害復興支援を目的とした「災害特別リフォームローン」「災害特別マイカーローン」 「大雪災害復旧支援特別資金」取扱開始	春のわくわく キャンペーン
子供の安全対策で「かけこみATM」の提供を開始 平成18年3月期 第3四半期財務・業績の概況開示	大阪支店を法人特化店と位置付け、移転 成和支店にATM増設	2	盗難・偽造キャッシュカードの被害補償に対応するためキャッシュカード規定を改定 投資信託商品「リターンエース7」取扱開始	
		3	「ふくほう法人WEBバンキングサービス」開始	

平成17年度 業績ハイライト

預金(単体)

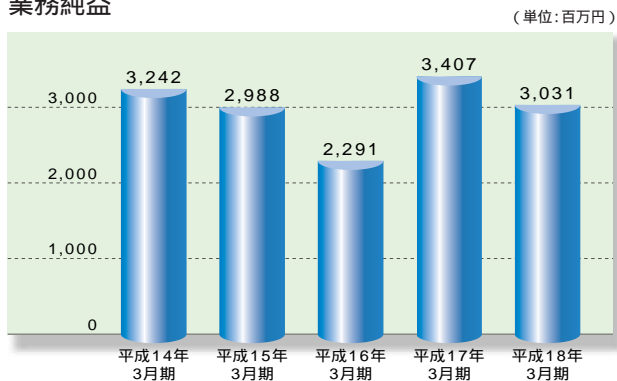


貸出金(単体)

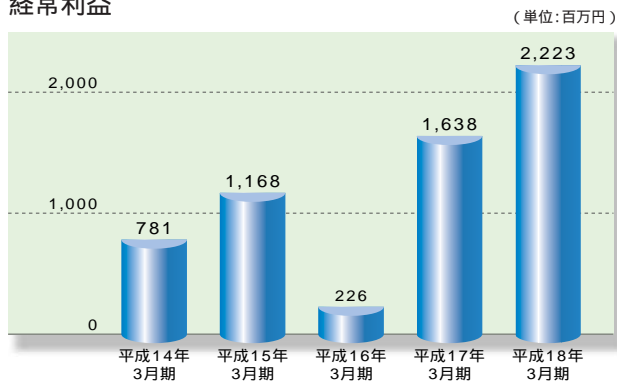


利益(単体)

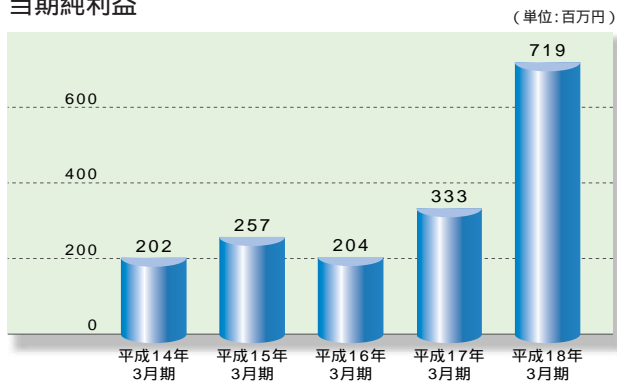
業務純益



経常利益



当期純利益



単体での決算状況

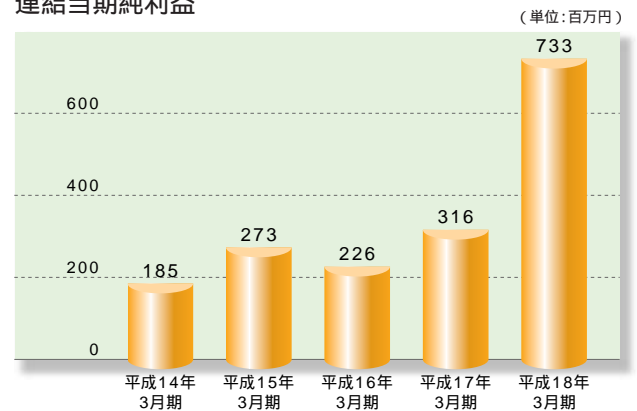
預金は、多様化するお客様の資金運用ニーズに積極的に対応するため、投資信託等の預かり資産の増強に注力した結果、前期末比72億55百万円減少し、期末残高は4,346億66百万円となりました。また、貸出金は、中小企業向け融資や消費者ローンの増強に積極的に取り組みましたが、事業性資金需要の低迷と不良債権の最終処理の実施等により、前期末比20億33百万円減少し、期末残高は3,450億21百万円となりました。損益状況につきましては、業務純益は前期比3億75百万円減少して30億31百万円、経常利益は前期比5億84百万円増加して22億23百万円、当期純利益は前期比3億85百万円増加して7億19百万円となりました。

利益(連結)

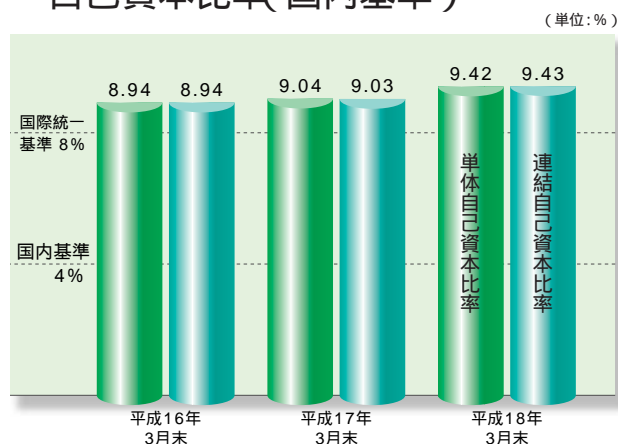
連結経常利益



連結当期純利益



自己資本比率(国内基準)



自己資本比率は銀行の安全性・健全性を示す重要な指標のひとつです。当行のように海外に支店を持たない銀行は国内基準の4%以上が義務付けられています。平成18年3月末のリスク・アセット(万一の場合、貸倒れの危険性のある資産)に対する自己資本の額は銀行単体・連結ともに233億円、自己資本比率は単体9.42%、連結9.43%となっています。

当行は、負債性資本(劣後ローン・劣後債など将来の返済が必要なもの)をとり入れておりません。

配当政策

当行は従来から、銀行業としての公共性に鑑み、長期にわたって安定経営に努めるとともに、配当につきましても安定した配当の継続を基本方針としています。この方針に基づき、当期におきましても、中間配当を1株当たり2円50銭、期末配当金は1株当たり2円50銭とし、年間5円といたしました。今後も引き続き内部留保の充実による財務体質の強化と営業基盤の拡充を図り、一層の収益向上に努め、株主各位のご期待に添うべく努力してまいります。

用語解説

業務純益

銀行本来の業務であげた利益から、業務を行う上でかかった経費と一般貸倒引当金繰入額を差し引いたものです。

経常利益

不良債権の処理や有価証券の売買などの活動も含めた通常の活動による利益です。

当期純利益

上記の経常利益から特別損益と税金を加減した最終的な利益です。